

資料 1

日立市立学校適正配置基本方針に関する地域懇談会の開催結果について

1 開催状況

	年月日	開始時間	会 場	参加者数
1	平成 29 年 10 月 16 日 (月)	午後 2 時	日立市役所	67 人
2	10 月 19 日 (木)	午後 6 時	仲町交流センター	19 人
3	10 月 21 日 (土)	午前 10 時	豊浦交流センター	10 人
4		午後 3 時	油縄子小学校	12 人
5	10 月 24 日 (火)	午後 6 時	河原子交流センター	21 人
6	10 月 30 日 (月)	午後 6 時	水木交流センター	22 人
7	10 月 31 日 (火)	午後 2 時	金沢交流センター	15 人
8	11 月 1 日 (水)	午後 2 時	久慈川日立南交流センター	25 人
9	11 月 6 日 (月)	午後 6 時	十王交流センター	13 人
10	11 月 7 日 (火)	午後 2 時	中里交流センター	12 人
11	11 月 9 日 (木)	午後 6 時	宮田交流センター	15 人
12	11 月 11 日 (土)	午前 10 時	久慈交流センター	19 人
13		午後 3 時	滑川交流センター	13 人
14	11 月 14 日 (火)	午後 6 時	日高交流センター	6 人
15	11 月 17 日 (金)	午後 6 時	大みか交流センター	8 人
16	11 月 22 日 (水)	午後 6 時	成沢交流センター	7 人
17	11 月 29 日 (火)	午後 6 時	大久保交流センター	10 人
				294 人

(参考) 第1回地域懇談会(平成29年1月～2月、7回開催)の参加人数 合計 98 人

2 主な意見 ※末尾のカッコ内は、発言者が居住する小学校区

(1) 日立市の基準等に関すること

ア 日立市の基準(各学年：小学校2学級以上、中学校3学級以上)について

(ア) 学校に勤務しているが、基準としている学級数は理想的であると思う。(水木)

- (イ) 自分の子どもを見ていて、1クラスには限界を感じる。教育活動も満足にできなくなっている。基準には賛成だ。(大みか)
- (ウ) この基準では学校がずいぶん減ってしまう。1学級の人数を減らして学級数を維持してほしい。(水木)
- (エ) これから子どもが少なくなっていくのに、2学級や3学級が基準というのはおかしい。(山部)

イ 学校規模について

- (ア) 自分の子どもの例などから、1学級でもよいところはあると感じている。
(中小路、油縄子、河原子、東小沢、山部、久慈)
- (イ) 子どもたちがどのように育っていくのかが大切で、学級数にこだわらなくてもよい。(中里)
- (ウ) アンケート結果は、大きな学校の意見が大多数となる。小規模校の保護者の意見にも十分耳を傾けてほしい。(河原子)
- (エ) 中学生は友人関係を築く時期。その時に1学級では不安だ。(仲町)
- (オ) 進学予定先の中学校は全校で5学級であるため、中学校はもっと大きな学校に通わせたいと思っている。(仲町)
- (カ) 子どもには友達付き合いができるように育ってほしいので、せめてクラス替えができる2学級はあったほうがよい。現在のクラスは19人中女の子が4人のみでバランスが悪い。統合の話が出てくるのは自然な流れだと思う。(仲町)
- (キ) 小規模校では、9年間同じ顔ぶれになる。自分の子どもが進学する中学校は全校で6学級規模であるが、部活動も少なく、切磋琢磨という点についても物足りない。子どもも、入りたい部活動がなく悩んでいる。中学生になるのに楽しそうではない。統合してほしいと思う。家族としては、子どものやりたいことなどの希望が見えないことが心配だ。(金沢)

ウ 学級規模について

- (ア) 学級の人数を35人としたままで、基準を2学級とすることは反対である。学級数の少ない学校で切磋琢磨できないというわけではない。学級の人数を少なくする方が大切である。(塙山)

(2) 取組に当たっての留意事項に関すること

ア 通学距離について

- (ア) 文部科学省が目安としている小学校の通学距離4kmは、小学生には長い。
(水木、山部、日高)

- (イ) 他県出身だが、日立市の市街地の学校は過密状態だ。学校が多いと思う。自分にも子どもがおり、交通量の多い国道などは横断させたくないと思うが。(助川)

イ コミュニティとの関係について

- (ア) 統合を進めるとコミュニティが消滅する。(中小路、日高)
- (イ) 小学校への愛着がコミュニティの横のつながりも醸成している。廃校になると、つながりが薄れてしまう。(山部)
- (ウ) 学区の見直しの際は、大きな学校から小さな学校へ移すことも考えてほしい。学校がないと子育て世代が住まなくなり、高齢者ばかりになってコミュニティ組織が立ち行かない。(中小路、山部)
- (エ) コミュニティと学校は切り離して考えなければならない。子どもたちを優先して考えるべき。それが大人の責任だ。(金沢)

(3) その他

ア 基本計画の内容、今後のスケジュールについて

- (ア) 見通しが立たない。基本計画の内容も含め、全体のロードマップを示してほしい。(中小路、仲町、油縄子、河原子)

イ 統合について

- (ア) 基本方針(素案)には良い面しか書いてないが、統合によるデメリットもあるだろう。それについても十分検討してほしい。(中小路、水木、山部)
- (イ) 万が一統合することになれば、対等な統合となるよう配慮してほしい。(中小路)
- (ウ) もっと広域に3～4校を統合して、スクールバスで通学させるようなことも進めてよいと思う。(仲町)

ウ 部活動について

- (ア) 部活動の問題は大きい。子どももいない、指導できる先生もいない。複数校の合同チームや、社会教育の活動の中でできるようにするなど、部活動の工夫をしてほしい。(田尻)
- (イ) 自分の子どもが通う中学校は全校で14学級規模であるが、部活動に偏りが出ている。部活動のことを考えると、基準の3学級では少ないのではないか。(滑川)

エ 地域懇談会の開催方法及び周知方法について

- (ア) 参加者が少ない、PR強化、学校での開催など、特に保護者と意見交換ができるようにしてほしい。(中小路、河原子)

- (イ) 「学校適正配置」の意味が分からなかった。保護者には伝わっていない。入学予定の保護者に丁寧に知らせてくれれば参加者が増えたと思う。(中小路、河原子)
- (ウ) 平日の午後２時では参加しにくい。開催時間を考えてほしい。(中小路、東小沢)
- (エ) 参加しやすい時間帯の開催に配慮してほしい。夕方の６時では、食事の時間になってしまう。(河原子)
- (オ) 基本計画の素案ができたときは、保護者が参加しやすい説明会にしてほしい。
(金沢)

オ その他

- (ア) 地元の中学校はなくなるという噂があり、保護者も子どもたちも不安である。
また、このままずっとプレハブ校舎、狭い校庭のままなのかという不安もある。
(坂本、仲町)
- (イ) 地元で生まれ育った者にとって、母校がなくなってしまうかもしれないことは切実な問題だ。このような気持ちも考慮してほしい。(中小路、滑川)
- (ウ) この基準には賛成である。しかし、統合した時点でも、子どもたちは減っていくので、繰り返しにならないように更に 20 年先を見た計画にしてほしい。
(助川、中里、東小沢)
- (エ) 統廃合は、ぐずぐずしてられない。子どもたちは確実に減っていく。
(金沢、東小沢)
- (オ) 子どもが減ることが前提のようだが、減少を食い止める施策を検討しているのか。少子化対策や人口流出をとめる手立ても大切だと思う。(東小沢、塙山、滑川)

以 上